

報告

“泉州 RUSH” プロジェクト報告・Ⅱ

—大阪観光大学学生による地元地域活性化に向けた取り組み—

橋 本 佳 恵

1. “泉州 RUSH” プロジェクト活動概要

2008年夏、大阪観光大学観光学部学生有志により、地元泉州地域の振興を旨とする“泉州 RUSH プロジェクト”が発足した。プロジェクト発足の経緯と当初の活動については「大阪観光大学紀要第10号」（2010年3月）の通りであり、ここではその後の活動について報告する。

(1) 「泉州プロモーションバスツアー」から「ツアー EXPO 2010」へ

泉州地域広域行政による「泉州地域プロモーション実行委員会」が泉州地域振興に向けた事業を広く展開しており、「泉州バスツアー」事業はその一つである。本学では、2009年4月から7月にかけて地域連携「泉州観光学講座」を開設し地域の魅力再発見をテーマにフィールドワークやグループワークを行っていたことから、泉州 RUSH プロジェクトがバスツアーの企画運営に協力することとなった（詳細は第2章）。

そして、学生の自主的組織である泉州 RUSH プロジェクトが「泉州プロモーションバスツアー」に参画したことに観光経済新聞社が注目して下さり、2010年5月1日・2日、大阪南港のインテックス大阪で開催された「ツアー EXPO 2010」で活動発表の機会をいただけることとなった。「学生による着地型観光を通じた地域活性化の実践」として、熊取町住民部にぎわい創造課職員と共に報告を行った。併せて、ステージイベントで、南泉州のキャラクターである“水なす”の「なすピン」と共に、「泉州 YOSAKOI ゑえじゃないか」のパフォーマンスを披露した。

(2) 地域連携「泉州観光学講座」

2009年度にスタートした熊取町ならびに泉佐野市と本学による地域連携「泉州観光学講座」は、その後も継続して開講されている。全15回の内容からなり、学内的には2単位が与えられる正課であって、町報や市報を媒体として広報され地域住民にも公開されている。

2010年度においては、本学教員、熊取町にぎわい創造課、泉佐野市商工労働観光課、華やいで大阪・南泉州観光キャンペーン推進協議会、さらに、関西国際空港株式会社にも登場いただきオムニバス形式の講義が行われた。フィールドワークとして関西国際空港見学を実施し、「関空に人を呼び込むための方策」をテーマとするグループワークを行った。

2011年度においては、熊取町との協働事業に向けた事前学習としての位置づけのもと熊取町による講義が3回、泉佐野市による講義が2回、地域産業関係者による講義が2回行われた。熊取町からは、にぎわい創造課観光振興グループ長明松大介氏による「熊取町の観光資源と観光政策」、同産業振興グループ長朝倉優氏による「熊取町の産業」、住民部部長田中豊一氏による「地域の歴史と遺産」についての講義が行われた。泉佐野市からは、商工労働観光課西納久仁明氏による「泉佐野市の観光資源と観光政策」の講義、翌週には西納氏のコーディネートにより、「泉佐野市の新たな観光の取り組み」をテーマに、株式会社 J プロデュース西谷泰生氏、泉佐野市観光コンシェルジュ高橋正信氏、荒野信介氏、中前知子氏、白石智哉氏、株式会社 JTB 西日本石田翔氏（泉州 RUSH メンバー卒業生でもある）によるパネルディスカッションが行われた。

また、地域産業関係者として、りんくうプレジャータウンシークル支配人山口雅弘氏、エコフィールド利用のブランドポーク“犬鳴ポーク”生産者の有限会社関紀産業

社長川上幸男氏らによる講義が行われた。

2010年度、2011年度の公開講座の内容は次表1・2の通りである。

表1 地域連携「泉州観光学講座」(2010年度)

日程	テーマ	担当講師
第1回 (5/6)	熊取町の観光資源と取り組み	朝倉優 熊取町役場にぎわい創造課
第2回 (5/13)	泉佐野市の観光資源と取り組み	西納久仁明 泉佐野市役所商工労働観光課
第3回 (5/20)	南泉州地域の観光促進の取り組み	華やいで大阪・南泉州観光キャンペーン推進協議会
第4回 (5/27)	地域と空港① 世界の空港事情	橋本佳恵 本学観光学部准教授
第5回 (6/3)	地域と空港② 関西国際空港の取り組み	松本朝充 関西国際空港株式会社総務部

表2 地域連携「泉州観光学講座」(2011年度)

日程	テーマ	担当講師
第1回 (5/12)	熊取町の観光資源と取り組み①	明松大介 熊取町役場にぎわい創造課
第2回 (5/19)	熊取町の観光資源と取り組み②	朝倉優 熊取町役場にぎわい創造課
第3回 (5/26)	熊取町の観光資源と取り組み③	田中豊一 熊取町役場住民部
第4回 (6/2)	泉佐野市の観光資源と取り組み①	西納久仁明 泉佐野市役所商工労働観光課
第5回 (6/9)	泉佐野市の観光資源と取り組み②	西納久仁明 泉佐野市役所商工労働観光課 西谷泰生 株式会社 J プロデュース 高橋正信／荒野信介／中前知子／白石智哉 株式会社 J プロデュース／泉佐野市観光コンシェルジュ 石田翔 株式会社 JT B 西日本
第6回 (6/16)	商業施設と地域社会	山口雅弘 りんくうプレジャータウンシークル
第7回 (7/7)	地域ブランドポークの生産	川上幸男 有限会社関紀産業

(3) RUSH “食” プロジェクト

地域について学ぶなかで泉州地域は農産物・海産物に恵まれ食が豊かであり、もとより“食”は学生にとっても身近な関心事であったことから、2010年度は、特に“食”を一つの柱として取り上げることとした。2010年春に熊取町と協定を結び、にぎわい創造課の協力を得ながら‘地域の食’にかかわるさまざまな活動を行った。

地元の農家ででの‘水なす’や‘葉ゴボウ’の収穫体験、‘フキ’畑の見学、また、婦人会の皆さんとの水なすの浅漬けや地域伝統食‘雑魚ごうこ’の調理実習、手打ち蕎麦クラブの皆さんの指導で地元ゆかりの‘そば打ち’、さらに、旬の地元食材を使ってオリジナル商品を開発している製パン会社の方に話を聞いたり、油脂工場の見学などを行った。また、南泉州在住で全国学校調理師連合会会長を務められている山中弓子先生とのご縁を得て、みかんやたけのこの収穫体験、地元食材を使った調理実習などに取り組んだ。

食プロジェクトは、大学の食堂に地元産品を取り入れたいという問題意識からスタートしたこともあり、町内他大学の学生食堂を見学したり、本学学生向けに、水なす浅漬けやオリジナルパンの試食会、熊取産の新米‘ひのひかり’を一定期間提供するなど、地場産品の紹介を行った。いずれは地元産品を使ったオリジナル商品の開発などにも挑戦していきたい希望をもっている。食プロジェクトの主な活動内容は表3の通りである。

(4) 熊取町との協働事業

2010年秋、熊取町の「住民提案協働事業」の公募が始まった。同年3月に「熊取町協働憲章」が策定されたことを受けての住民提案による住民と町との協働事業のスタートであり、RUSHプロジェクトも事業提案を行った。

地元における新たな観光資源の開発と情報発信を旨として熊取町を目的地とする企画旅行の実施を提案する内容であり、公開プレゼンテーションによる審査を経て採択され、2011年度の協働事業として実施することとなった(詳細は第3章)。

(5) その他の活動

泉南市の山桜再生を旨とするボランティア団体から声を掛けていただき、群生する山桜に絡まって桜を倒してしまう‘つた’の伐採や泉南の自然を楽しむウォーキングルートのモニター、熊取わたっ子クラブの皆さんの手ほどきで藍染めなど地場産業体験も行ってきた。

また、2010年度においては、関西国際空港の利用者を対象として、主にサービスの側面に関する聞き取り調査や質問紙調査を実施した。

講演や活動報告にも積極的に取り組んでいる。2009年秋には、熊取町「あるふあシティくまとり推進会議」が主催する〈まちづくり講演会〉において、地域のにぎわい創造に向けた学生提案発表を行った。2010年には

表3 RUSH 食プロジェクト活動概要(2010年6月~2011年5月)

	活動日	項目	内容	参加者
1	2010/6/30 ~2010/7/6	学生食堂利用に関する調査	学食利用についてのアンケート調査の実施 対象: 本学学生	学生 8
2	2010/7/2	町内他大学の学食見学	関西医療大学学食見学	学生 8、学内 2、 熊取町 1
3	2010/7/17	熊取町食ツアー	水ナス収穫体験、調理実習、地域食品工場訪問、体育大学学食見学など (プログラム) JR 熊取駅下にぎわい館前集合 → 泉佐野食品コンビナート(オリエンタルベーカリー) → 泉佐野漁協青空市場見学 → 大阪体育大学学食見学 → 水ナス収穫体験(山中農園) → 水ナス浅漬け体験・雑魚ごうこ調理実習(熊取町公民館調理室) *指導: 町婦人会	学生 17、学内 2、 卒業生 1、熊取町 2
4	2010/7/21	水ナス試食会	学食での水なす浅漬け試食会	学生 12、学内 1
5	2010/7/27① 2010/10/5② 2010/12/8③	地域製パンメーカーによる地場産品利用のオリジナル商品の試食会	オリエンタルベーカリーによる地場産品を活かした季節限定オリジナルパンの試食会およびアンケート調査の実施 ①「泉州たまねぎパン」 ②「かねちかの桃デニッシュ」 ③「犬鳴豚のメンチカツサンド」	学生 5
6	2010/12/11	みかん収穫体験	貝塚市三ヶ山みかん収穫体験 山中さんの農場でのみかんの収穫体験 (みかん、伊予柑、すだち、デコポン、バンペイユ、レモン、ゆず、甘夏、はっさく、ネーブル、ごくわせ、ポンカンなど)	学生 6、学内 3、 熊取町 1
7	2010/12/17	食品工場見学	泉佐野食品コンビナート内不二製油工場見学	学生 4、学内 2、 卒業生 1、泉佐野市 1
8	2010/12/17	調理実習	泉州食材利用の調理実習 メニュー: 犬鳴ポークと泉州水菜のトマトスパゲティ、温州みかんのカップケーキ・ゼリー (熊取町公民館調理室) *指導: 山中さん	学生 9、学内 1、 熊取町 1
9	2010/12/20 ~2010/12/22	熊取町新米試食会	熊取町新米「ひのひかり」学食提供およびアンケート調査の実施	学生 5
10	2011/1/31	調理実習	泉州食材利用の実習 メニュー: 泉州バラ寿司、かきたま汁、ハチミツレモンおよびフルーツガミキャンディー、泉州ふきのロールケーキ (熊取町公民館調理室) *指導: 山中さん	学生 9、学内 3、 熊取町 1
11	2011/2/19	熊取町食ツアー	蕎麦打ち体験、葉ゴボウ収穫体験、フキ農家見学、タオル工場見学など (プログラム) JR 熊取駅下にぎわい館前集合 → 蕎麦打ち体験(指導: 熊取蕎麦打ちクラブ宮本さん) → 昼食 → 葉ゴボウ収穫体験(中尾農園) → フキ農家見学(岸上農園) → タオル工場見学(坂口佐タオル)	学生 5、学内 1、 卒業生 1、熊取町 2
12	2011/4/24	山中さん主催「たけのご祭り」	山中さん主催「たけのご祭り」参加 たけのご掘り、たけのこを始めとする地場産品料理の試食	学生 2、学内 1
13	2011/5/13	地場食材による商品開発打合せ	地場産品を使ったオリジナルスイーツの開発を目標とする打合せ	学生 2、学内 1、 熊取町 1、事業者 2

※これ以降は、熊取町と大阪観光大学泉州 RUSH プロジェクト協働事業(「味わい泉州-熊取旬の旅-」)と連動し、そば打ち、水なす浅漬け、JA 大阪泉州・JA いずみの見学、水なす農家見学、地元レストランとのメニュー検討などを行った。

※2011年度内に「犬鳴ポーク」養豚場見学、製パン工場見学などを予定している。

泉佐野市観光協会主催の講演会、秋には「歴史館いずみさの」主催の歴史セミナー、2011年7月には「はびきの市民大学」で発表を行った。プロジェクト発足以来、毎年秋の本学学園祭「明光祭」においても「泉州 RUSH プロジェクト活動報告」を行っている。

2. 「泉州プロモーションバスツアー」 －泉州広域行政による 地域プロモーション事業への協力－

(1) 泉州広域プロモーション事業への参加

泉州地域のプロモーションを目的として、堺市から岬町までの泉州地域9市4町の広域行政により「泉州地域プロモーション実行委員会」が組織されており、事業の一つとして、毎年「バス部会」が、大阪府ならびに関西国際空港会社と共に、地域活性化と関西国際空港利用促進を旨とする「泉州プロモーションバスツアー」を実施している。

地域連携講座などで泉州地域について学んできたことがきっかけとなって、泉州 RUSH プロジェクトがバスツアーに協力することとなった。2009年度で7回目を迎えるバスツアーに、従来からのリピーターとは少し異なる層を取り込みたいという委員会の意向もあり、学生の参画に期待いただいた。

(2) 「泉州プロモーションバスツアー」概要

泉州プロモーションバスツアーには、2009年度と2010年度の2回参加した。

2010年2月から3月にかけて実施された2009年度のバスツアーでは、泉州の食をテーマとする「泉州食のフルコース」を提案した。このコースは、泉州地域を巡りながら併せて食を楽しむコースで、アペタイザー代わりのいちご（狩り）、季節の地元食材を使ったオリジナル洋風弁当の昼食、ヨーグルト工場見学（試飲付き）、漁協青空市場で水揚げされたばかりの海産物とセリを楽しんでいただき、最後に地元の酒造店で日本酒の試飲会、という行程である。泉州プロモーションバスツアーはリピーターに人気が高く、毎年、販売されると直ぐに満席になるそうだが、「泉州食のフルコース」は特に人気があったとのことであった。

2010年度は、プロモーション実行委員会と本学とで協定を結んだ上での参画となった。2011年2月から3月にかけて催行されたバスツアーでは、プロモーション実行委員会バス部会の素案をもとに RUSH プロジェク

トが作成した3コース（「ひょっこり関空島ツアー」「まったり町歩きツアー」「うっかり満腹ツアー」）が実施された。

「ひょっこり関空島ツアー」は親子参加を想定したコースで、関西国際空港を見学して機内食の昼食、関空を臨むマールビーチと道の駅でのフリータイム、自転車博物館を行程に組み入れたものである。「まったり町歩きツアー」は歴史の好きな方向けで、城下町（岸和田）、寺内町（貝塚）、町場（泉佐野）といった泉州の特徴ある3都を、それぞれの地域のボランティアガイドと共に徒歩で巡るコースである。「うっかり満腹ツアー」は、体験や見学をしながら泉州の食を堪能していただくコースで、いちご摘みから始まって、地元ブランドの“犬鳴ポーク”がメインディッシュのフレンチの昼食、歴史のある洋館を見学しながらオリジナルスイーツのカフェタイム、ヨーグルト工場の見学（試飲付き）、最後に地元銘菓店でのお菓子の試食という内容であった。

全コースとも、受付開始と同時に完売となった。ツアー当日には、バス部会の皆さんの指示のもと RUSH メンバーが簡単な観光案内や添乗補助を担当させていただいた。

(3) 「泉州プロモーションバスツアー」を終えて

行政が連携して実施する地域振興事業に参加し、実際にツアー行程の提案やリーフレットデザイン、添乗補助などの点でかかわることができ、学ぶことが多かった。観光学部で学んでいるとはいえ知識も経験も十分とはいえない学生たちがツアーに同行するにあたっては実行委員会の皆さんにご心配をおかけしたことと思うが、関係の方がたのご配慮により貴重な体験をさせていただいた。知識や経験の足りない分、学生たちはツアーに真摯に向かい心からのホスピタリティをもって旅のお手伝いをさせていただいたようである。ツアーの参加者からは、言葉使いや案内の仕方などさまざまな課題を指摘いただいたが、それと同時に、取り組みや頑張りに対するお褒めの言葉や感謝の言葉も頂戴した。

泉州地域プロモーション実行委員会の事業に参加できたことは、RUSH プロジェクトにとって一つの大きな成果であったが、それがきっかけとなって、観光経済新聞社大阪支社から「学生による着地型観光の実践」として、「ツアー EXPO 2010」での発表の機会をいただいただけのこととなった。

3. 大阪観光大学泉州 RUSH プロジェクト・熊取町協働事業 -「味わい泉州-熊取旬の旅-」の実施

(1) 「熊取町協働憲章」に基づく協働事業

2010年3月、「熊取町協働憲章」が策定され、地域住民による協働事業制度がスタートした。行政と地域住民とが協力して地域の課題に取り組み、より良い町づくりをみざす先駆的な制度であり、住民参加のまちづくりが一層推進されることになった。その第1期として、2010年秋に地域住民に向けた公募があり、観光を通じた地域活性化をテーマに、泉州 RUSH プロジェクトも事業提案を行った。12月に行われた公開プレゼンテーション審査を経て、2011年度の事業対象の一つとして採択された。

RUSH プロジェクトが提案したのは、観光大学の特徴をいかして、①若者の視点で熊取町の新たな魅力（観光資源の種）を発見し、②その魅力について情報発信を行い外部から地域に訪れてもらい、③それによって交流を促進し、にぎわいの創造と地域振興をみざす、ものでありそのための方法として、熊取町を目的地とする企画旅行を実施しようとするものであった。RUSH プロジェクトの発足以来、地域連携講座や泉州地域プロモーションバスツアーへの参加、食プロジェクトや地域産業体験などを通して蓄積してきた知識と経験の応用編ともいえるものである。

(2) 協働事業実施に向けて

2011年春から、協働事業に向けた準備が始まった。討論を重ねるなかで、地場産品、水なす、地場産業、伝統、体験、交流、といった言葉がキーワードとして挙げられた。2009年度から開設している「地域連携講座」を、あらためて町についての学びと新たな資源発見のための手がかりの場として位置づけることとした。ゲストスピーカーによる講義とフィールドワークを通して地域について学びながらツアーの構成要素を検討し、フィールドワークをツアーのモニターとして活用、フィールドワークの運営はツアー本番に向けた実践的な事前練習の機会と捉えた。

週一回の放課後が協働事業のための定例会議日となり、毎週、閉門ぎりぎりまで議論が行われた。ツアーコンセプトの決定、具体的なルート策定、関係各所との調整、広報についての検討、さらに、それらと同時進行

で、参加者募集のための媒体の作成や必要備品の準備など、ツアー実施に向けて全力が傾けられた。検討すべき事柄が多すぎてやがて週一回の会議では時間が足りなくなり、土曜日が定例会議日に加わった。プロジェクトメンバーの4年生は就職活動と並行しての活動であったため、ウィークデーの会議には時折メンバーのいずれかが欠けたが、むしろ土曜は全員揃って議論できる良い時間で侃侃諤諤の議論が毎週末展開された。業務の分担を決め、各人がそれぞれの担当業務を適宜個別に進め、メンバーが揃うコアの会議時間には情報共有と方向性の決定という段取りで準備が進められた。熊取町役場、旅行会社、地元のバス会社の担当者にも必要に応じ会議に参加いただいた。

(3) 「味わい泉州-熊取旬の旅-」の実施

ツアー行程は、泉州の地場産品のなかでも最も認知度の高い「水なす」をメインとしてアピールしながら、今後地域魅力として発信していきたい「伝統産業」と「遺産」を紹介しながら、そこに「体験」と「交流」を絡ませるといった内容となった。“食”のイメージをふくらませてもらいつつも、食にとどまらない地域の魅力に触れていただきたいという想いから、ツアーの名称を「味わい泉州-熊取旬の旅-」とした。親子での参加も勘案し、実施日は7月23日(土)と8月6日(土)とした。

ツアーは、「水なす畑の見学と水なす農家の浅漬け試食」→「こだわりのレストランで地場産品を使ったこだわりメニューの昼食」→「産業遺産レンガ館と重要文化財中家住宅の見学」→「浅漬け体験」→「そば打ち体験」または「藍染め体験」のいずれか一方を選択、という内容となった。また、老舗菓子店の協力を得て地元銘菓を提供いただき、地場産品紹介を兼ねてJA大阪泉州と泉佐野漁協にも立ち寄ることとした。

水なす畑の見学と水なす浅漬け試食は、野菜出荷協議会水なす部会長にお世話になることとなり、水なすの浅漬け体験は町の婦人会の皆さん、そば打ち体験は熊取手打ち蕎麦クラブの皆さん、藍染め体験は熊取わたっ子クラブの皆さんに、それぞれ講師としてご協力いただいた。そして、それら産業体験の会場として、国指定重要文化財の「中家住宅」と綿布工場跡を地域交流センターとして復活させた経産省近代産業化遺産に登録されている「レンガ館」が利用できることとなった。また、町役場住民部部長が、中家住宅とレンガ館の案内をして下さることとなった。

広報としてはポスターとチラシを作成することとし、デザインは RUSH プロジェクトの卒業生が担当した。大阪市内の駅に貼るポスターと関係各所に配布するチラシで参加者募集を行うと決めたものの、町からの補助を受けているとはいえ限られた予算の範囲でどのように広報するかが大きな課題であった。準備全般が計画よりも遅れ気味ななかで集客に不安があったが、幸いにも「読売新聞」と「産経新聞」が取り組みについての記事をタイムリーに掲載下さり、両日で 50 名の枠は即刻売切となった。

参加者の受付業務は、RUSH プロジェクトの卒業生の勤務する旅行社に依頼した。

ツアー当日は、RUSH プロジェクトメンバーに加え、初回は熊取町役場住民部部長田中豊一さんが、2 回目は同じにぎわい創造課観光振興グループ長明松大介さんが、それぞれ終日同行支援下さった。また、両日も、同じくにぎわい創造課観光振興グループ古谷恵さんが、現場現場で学生協力者と共に側面からツアーをサポート下さった。

多くの方がたの協力を得て、参加者の大満足のなか、2 回のツアーは終了した。地元紙の「ニュースせんなん」と観光業界紙「観光経済新聞」が、ツアー当日の様子をそれぞれ写真とともに掲載下さった（添付資料参照）。

4. 学生による地域活動展開の背景

(1) プロジェクト発足に至る背景

“泉州 RUSH” プロジェクト発足のきっかけとなったのは高校生向けオープンキャンパスへのかかわりであり、その経緯については前報告で述べている通りであるが、学生が主体で地域振興活動を開始し現在までのところ順調に活動を展開している背景について少し説明を加えたい。

2006 年 4 月、本学は大阪明浄大学から大阪観光大学へと名称を変更した。観光を学びたい学生を広く全国から募集するための観光大学らしい特徴のあるオープンキャンパスが模索され、学生が企画するツアーを組み込んだオープンキャンパスが検討された。当方のゼミが観光案内や人的サービスをテーマとしていたことから、塩澤潔学長（当時）の要請を受け、企画広報課と連携してツアー形式のオープンキャンパスの運営にかかわることとなった。

その年、最終的に実施されたオープンキャンパスツア

ーは、学生と高校生がチームを組んでフィールド見学を行い、それぞれが何らかの課題を発見し、その課題解決に向けたグループ討論を行い発表する、それを 1 泊 2 日のツアーとして実施する、という内容であった。学生がツアーの企画を行い一般のツアーさながらに高校生を案内するという事は大学としても学生にとっても非常にチャレンジングな試みであったが、参加する高校生にとっては観光学部のゼミ体験の良い機会であり、学生にとっては学部での日々の学びの実践の場となった。愛知・京都・大阪・和歌山・長崎・鹿児島と出身地もさまざまな当ゼミ 5 期生が企画運営を担当した「OSAKA ツアー」は、全国から集まった高校生の参加を得て 2006 年 8 月に実施され、成功のうちに終了した。

「来年は自分が高校生向けのツアーを企画したい」と感想を述べた高校 3 年生が翌春入学してスタッフに加わり、手を挙げてくれた他の学生メンバーらと共に、翌 2007 年は「ミステリーツアー」、2008 年は「ディスカバー大阪」、2009 年は「大阪縦断クイズバトル」と、宿泊を伴ったツアー形式のオープンキャンパスが、その年々の学生のアイデア満載で、その後 4 年間実施された。

(2) 泉州 RUSH プロジェクト発足

静岡、岐阜、大阪、鳥根、福岡出身の 7 期生たちが企画運営した 2008 年の「ディスカバー大阪」ツアーは、“水”と“環境”をキーワードとして泉州地域と大阪市内を結びつけたものであった。大学近隣の市町を散策、地元の犬鳴温泉の旅館に宿泊して討論、翌日は大阪市内に移動し乗船して水辺から街を見て泉州地域と比較しようという内容である。多くは地方出身の学生たちが、全国から参加した高校生を案内したことで気付いたことがあった。大阪出身の高校生でも泉州地域についてほとんど知らないこと、学生たち自身も実は地元についての知識がほとんどなかったこと、そして、自分たちが住み学ぶ地域が自分たちが思っていた以上に魅力的な地域であったこと、である。

「多くの人に泉州地域を訪れて欲しい、地域の魅力が知られていないなら情報発信していこう、自分たち自身も地域についてもっと学んでいこう」、そのような想いから“泉州 RUSH”と命名し活動が始まった。

オープンキャンパスへの協力を通して学生たち自身が得たものも多い。他者に何かを伝えることの楽しさ、自分たちに向けて発せられる感謝の言葉、実際にツアーを企画運営した自信、そのような諸々がその後の活動につ

ながら現在に続いている。

5. “泉州 RUSH” プロジェクト活動 の成果および課題と今後の展開

(1) 成果と課題

泉州地域の新たな魅力発見と情報発信を目的として、3年間活動してきた。2010年から2回参加した泉州地域プロモーション実行委員会による泉州プロモーション事業と今年度から開始された熊取町の協働事業では、それぞれ一般向けのツアーの造成と運営にかかわることができた。ツアーに参加された多くの方がたに、泉州地域や熊取町の魅力を感じていただけたものと思う。それぞれの事業が目的とする地域振興に少しでも貢献できたことは、大きな喜びである。

企画・手配・集客・当日の受付や誘導・案内などツアー全般にかかわったことは日頃の観光学部での学びの貴重な実践の機会でありツアー参加者との交流は緊張のなかにも嬉しい時間であった。食プロジェクトの一環として地場産品の農場見学や収穫体験、地場産品を使った調理実習やオリジナルレシピ開発などは楽しい取り組みであり、それらは全てツアーに生かされている。

活動がメディアに取り上げられたり、また、そのことによりプロジェクトの認知が高まったことは、メンバーにとっては大いに励みとなった。新聞掲載については、わずか3年ほどの間にこれほど記事に取りあげていただけることは無いのではと思うほどであった。

RUSH 卒業生の役割も大きい。プロジェクト発足当時の学生たちは既に社会人となりそれぞれの場所で活躍しているが、一部は現在も後輩たちの活動に直接的にかかわってくれ、遠方の者も機会あるごとに精神的支援を寄せてくれている。卒業後も後輩や活動への連携を持ち続けてくれていることは、プロジェクトを推進するにあたっての隠れた力となっている。

泉州 RUSH プロジェクトの活動の場が、学外、そして、地域外にもおよぶものとなりつつあり、プロジェクトメンバーにはより大きな期待と重い責任が求められ

るようになってきている。活動の幅が広がり、以前にも増していくつかのプロジェクトが同時進行で展開するようになった。大学生としての勉強やクラブ・サークル活動、人によってはアルバイトや就職活動とも両立させながらのプロジェクト推進となっており、さまざまな制約のなかで、どの様に力を発揮し活動を充実させていくことができるかがこれからの課題である。

(2) 今後の展開

2011年夏、次年度の熊取町の協働事業に向けた提案の募集があった。今年度の課題を踏まえ、再び観光交流を通じた地域振興を目的とする事業提案を行い、公開プレゼンテーションにより採択されることとなった。2012年度における RUSH プロジェクトの中心的な取り組みになるものと思う。

2012年1月半ばには、大阪市内で開催されるメガイベント“大阪モーターショー”において観光経済新聞社よりブース提供をいただけるとのことで、出展の予定である。現段階では詳細は未定であるが、ドライブ旅行に適した泉州地域の観光資源に関する情報発信と泉州 RUSH プロジェクトの活動報告になるかと考えている。

発足以来、活動の範囲と交流の輪は自分たちの予想をはるかに上回るペースで広がっている。この2年間共に走り続けてきた4年生の川上愛子、勝田佳治、人見周一、東里奈らはまもなく卒業となる。その後は、現在3年生の中山佳那子らが中心となって後輩をリードし活動を進めることになる。現在まで少しずつ積み上げてきた経験と実績の上に、さらに新たな活動を加えていきたい。

謝辞 泉州 RUSH プロジェクトの活動にかかわって下さった全ての皆様に感謝いたします。

付記 泉州 RUSH プロジェクトの活動にあたり大阪観光大学共同研究助成(2010年度・2011年度)をいただいた。

資料 3

1. 「味わい泉州－熊取旬の旅－」(2011. 7. 23./2011. 8. 6.)

■協働事業提案 ■準備 (企画会議・水なす農家打合せ・そば打ち打合せ・広報活動)



■ツアー当日 (集合・バス車内・案内・水なす農家・浅漬け試食・昼食・レンガ館見学・中家見学・水なす浅漬け体験・そば打ち体験・そば試食・藍染め体験・車内挨拶・解散・反省会等)



2. 「泉州地域プロモーションバスツアー」(2010 /2011)

■企画会議



■ツアー当日 (打合せ、受付、誘導、車中挨拶、引き継ぎ等)



3. 地域連携講座「泉州観光学」2011. 4. 7.~7. 21.



4. 地域連携講座「泉州観光学」フィールドワーク（JA、永楽ダム、図書館、大森神社、中家住宅、レンガ館、青空市場、りんくう公園等）2011. 4. 16.



5. 食プロジェクト（打ち合わせ、収穫体験、調理実習、工場訪問、熊取米試食会等）



6. 泉南市山桜 ツタの伐採 2011. 2.



7. 講演・活動報告

(1) ツアー EXPO 2010 セミナー報告およびステージイベント 2010. 5.1~2 インテックス大阪



(2) 講演 泉佐野市観光協会 2010. 7. 16. 泉の森ホール



(3) 講演 泉佐野市歴史館いずみさの 2010. 11. 21.



(4) 講演 はびきの市民大学 2011. 7. 10. LIC はびきの



(5) 活動報告 大阪観光大学明光祭 2010. 10. 30・31/2011. 10. 29・30.

